

平成24年度村政懇談会
【地区自治会質問・要望書兼回答書】

平成24年7月11日

【地区自治会名】	真崎地区自治会
【質問事項（題目）】	真崎コミセン東側(海側)の用地取得について
【質問要旨（内容）】	<p>3・11東日本大震災時には50台を超える車両が駐車場を占有し、支援車両の支援活動にも支障をきたした。加えて当コミセンは南北に進入口がありながら大型車両の南北への通過が出来ない状況である。</p> <p>このため各地域において巨大地震が予想される中で、災害時のコミセン敷地のあり方について地区自治会内で検討した結果、現駐車場は、避難車両の占有により、給水、備蓄品、援助品等の搬出入等住民の支援活動に支障をきたす恐れが大であることなどから、これらの災害時の支援活動の不具合を解消するため、コミセン東側の用地を取得し、基幹避難所として駐車場等の整備を図るとともに、住民の安全安心につなげる上からも、是非南北の連絡道路の整備を要望する。</p>
【回答】	総合政策部 自治推進課
	<p>真崎コミュニティセンターの駐車場については、御指摘のとおり南北に進入口がありながら、その構造により大型バスでの通り抜けができない状況になっております。</p> <p>また、東日本大震災時においても、多くの避難車両が駐車し混乱を招きました。駐車場の課題については当然ながら認識をしておりますが、コミセン用地の拡張については、重要総合プロジェクト「食と農のふるさとづくり」の観点から、行政自らが農地を転用することには慎重さを求められており、現時点での購入は考えておりません。</p> <p>なお、通常時においても大型バスを活用した事業も考えられることから駐車場北側進入口の拡幅を今年度中に実施してまいります。</p>
【質問事項（題目）】	村松小学校「通学路」の交通安全対策について
【質問要旨（内容）】	<p>通学児童の登校中の交通事故被害については、昨年一年間で2,485人（警察庁調べ）の被害が全国で発生し、記憶の新しいところでは、京都府の亀岡の事故・大阪府中央区の事故等通学児童が巻き込まれる痛ましい事故が発生している。旧県道（合同庁舎南交差点）付近では道路が拡幅整備された関係で通行車両の交通量が増えるとともに速度を落とさず左折、歩道と縁石を乗り越えて住宅の車庫に突っ込む事故が2度も発生している。通学路については歩道と車道との間の縁石を高くする、あるいはガードレールを設置する等の対策が必要である。また、村松小学校周辺の歩道表示・スクールゾーンの表示が劣化している。見直しと整備をお願いしたい。</p>

【回答】建設水道部 区画整理課・みちづくり課

現在、村内の通学路の交通安全対策につきましては危険箇所等の調査をおこなっているところでございます。

要望いただきました交差点周辺につきましては、東海中裏の旧道と舟石川3区集会所前からの接続を除きほぼ整備済みとなっております。

ご指摘の2件の事故につきましては、運転者のモラルの低さによる無謀運転と考えられます。しかし、より安全な通行と事故に巻き込まれない対策について警察や関係部署と協議をおこない対応してまいりたいと考えております。

【回答】消防防災課

村松小学校周辺のスクールゾーンの路面表示の劣化については、要望をお受けしておりました真崎区自治集会所から荒谷墓地周辺までの区画線の修繕を、今年度早々に実施いたしました。今後も、通学路の整備について全村的な課題と捉え計画的に整備をすすめて参ります。

【質問事項（題目）】

中央地区土地区画整理事業の進捗状況と今後のスケジュール及び同真崎地区内における災害時の避難道路等の防災対策について

【質問要旨（内容）】

中央地区は、事業認可後すでに17年が経過している。現時点での進捗状況と今後の事業計画について具体的なスケジュールを示していただきたい。加えて「東日本大震災」の被害状況に鑑み同真崎地区内の災害時の避難道路及び土砂災害警戒区域の防災対策について伺いたい。

【回答】建設水道部 区画整理課

《中央土地区画整理事業の進捗状況と今後のスケジュールについて》

中央地区全体の進捗状況ですが、平成23年度末現在、49.2%（事業費ベース）となっております。

中央地区はこれまで既存の住宅周辺を優先して整備を行っており、移転予定の戸数としては全95戸のうち74戸がすでに移転済となっております。

雨水排水の整備につきましては、昨年の震災の影響により震災復旧工事を優先しているため、現在工事がストップしている状態です。震災復旧にある程度目途が立てば、工事を再開する予定です。

道路整備につきましては、総延長16,185mに対し6,985mが整備され、道路の進捗率は43.1%となっております。

勝木田下の内線につきましては、五反田線より南側は、ほぼ道路形状としては出来上がっており、今年度は一部舗装工事を行います。また、五反田線より北側につきましては、道路築造と併せて順次、家屋移転を進めてまいります。なお、東海五反田線と石橋向荒谷台線を結ぶ橋梁につきましては、今年度、設計を行い、完成目標は平成27年度頃を予定しています。

また、中央地区につきましては、緑地の見直しや事業期間の延長等も含め、現在、事業計画の変更の作業を進めています。

今後のスケジュールとしましては、道路や整地等の工事完了が平成30年度、その後の換地処分等の手続きに3年程度、最終的な事業完了年度は平成33年度頃を目標としています。

ただ、施行者としましては、目標に向け事業の早期終結に努めてまいります。今後、谷津田等の起伏に富んだ場所の整備が多く残っており、施工方法や作業手順を十分検討しながら進めていくため、場合によっては事業完了が延長される可能性があるということも御理解いただければと思います。

《真崎地区内における災害時の避難道路等の防災対策について》

区画整理地内の避難道路等の整備に関しては、施工計画などを踏まえながら関係部署との協議の上、地域防災計画に基づく防災対策の充実を図っていかねばならないと考えております。

防災対策としては、避難道路の整備改良だけでなく、防災性・安全性を考慮した公園などの避難場所の確保や防災拠点となる学校やコミュニティーセンターなどの建築物の耐震化等に努めてまいります。

なお、中央地区には幾つかの谷津田がございます。真崎地区内では根崎地区が該当となりますが、盛土工事のためなかなか工事が進まない状況となっており大変ご迷惑をおかけしております。区画整理地内の既存の道路等で一部危険な箇所等につきましては、地域の意見を聞き、必要によっては応急的な工事に対応したいと考えております。

土砂災害警戒区域の防災対策としては、村としては土砂災害ハザードマップを作成し、個人への配布やホームページでの周知に努めております。また、表示板の設置による危険箇所の周知、防災の拠点となる施設への土砂災害に関する情報伝達方法の確立を進めてまいります。さらに、災害時の状況を住民相互との連絡体制の確立や地域に根ざした自主防災組織の育成を通じ、防災都市基盤づくりに住民と協働で取り組み、安心・安全なまちづくりを目指してまいります。

【回答】 経済環境部 消防防災課

災害時における真崎地区の基幹避難所は、真崎コミセンであり、真崎地区の住民の避難拠点になると考えております。

その中で、各基幹避難所において、避難ルートを村全体的に指定することは難しいと考えておりますことから、避難経路の確認については、住民の皆様各々が、日頃から道幅・迂回路・夜間の安全性等を確認し決めておいていただきたいと考えております。

なお、真崎地区におきましては、本年4月に自主防災組織が立ち上がったこともあり、災害時には、自主防災組織を活用して避難誘導班（これには災害時要援護者の安心サポーターが入る）が基幹避難所である真崎コミセンへ被災の少ない道路を使った避難・誘導するように努めて頂きたいと考えております。

2点目の土砂災害警戒区域の防災対策についてですが、村では、昨年度、茨城県のデータをもとに「東海村土砂災害ハザードマップ」を作成し、全戸配布しました。この中には、真崎地区自治会における危険箇所も記載されており、基本的には、山あいの場所が大雨等の災害によって、土砂崩れの恐れがある場所です。このハザードマップで、土砂災害が発生する恐れのある地域を明らかにして周知及び土砂災害に対する意識高揚に努めております。

以上につきまして、御理解いただきたいと考えております。